

○「第2次宇都宮市自転車のまち推進計画」の施策事業一覧

別紙3

柱	基本施策	施策・事業	事業所管課	取組内容	事業進捗	実績	評価	今後の取組方針
基盤づくり	自転車ネットワーク整備プロジェクト	生活利用自転車ネットワーク路線の自転車走行空間整備	道路建設課	自転車が安全に走行できるよう、交差点も含め自転車走行空間の連続性を確保するとともに自転車事故を抑制し安全性の高い自転車走行環境を創出する。	計画以上	・奈坪通りなど13路線 ⇒12.3km整備 ・整備延長93.1km/123.3km【整備率 75.5%】	・目標値を大きく上回る整備を進め、自転車を安全・快適に利用できる通行環境整備の充実を図った。	・自転車が安全に通行できるよう、交差点も含め自転車通行空間の連続性を確保するとともに自転車事故を抑制し安全性の高い自転車通行環境を創出するため、「自転車ネットワーク計画」に基づき計画的に整備する。 ・誰にとっても安全で快適な通行空間となるよう、道路改良や歩道のバリアフリー化などの様々な機会を捉え、歩行者・自転車・自動車それぞれの通行空間が分離された質の高い自転車通行空間の整備に取り組む。
		サイクリングロード・サイクリングルート整備	道路建設課	本市のサイクリングロード未整備箇所について、河川管理者と連携しながら計画的に整備を進める。また、サイクリングルートを安全で快適に走行できるよう、注意喚起やルート案内などのサイン表示を設置する。	概ね計画どおり	・田川サイクリングロード ・整備延長6.0km/6.9km【整備87.0%】	・田川サイクリングロードにおいて、2.5km整備し、予定している工事区間の87%が完了した。 ・今後は、より多くの方に利用していただけるよう、認知度向上と魅力の発信が必要である。	・田川サイクリングロードの未整備箇所について、引き続き、段階的に整備する。 ・サイクリングルートを活用した取組について検討する。
		既整備路線における自転車走行空間の維持管理	道路建設課 道路保全課	矢羽根等の塗装剥離の修繕など、継続的に安全な自転車走行空間が確保できるよう適切な維持管理に努める。	概ね計画どおり	・「自転車専用通行帯」や「矢羽根型路面表示」の塗装剥離の修繕 【修繕延長】 ・自転車走行帯 工事延長 360.8m ・矢羽根型路面表示 工事延長 約885.9m	・自転車走行帯や矢羽根の路面標示について、アスファルト舗装の修繕等と一体的に更新を行った。	・良好な視認性を確保し、自転車を安全に利用できる通行空間を維持するため、路面標示の劣化等を把握し、緊急性や利用者への影響等を踏まえながら、適宜修繕するなど、適切な維持管理に努める。
		走行支障物件の撤去指導	技術監理課 道路管理課	走行支障物件の撤去指導を図るとともに、歩道の切り下げ工事や無電柱化事業など関連する事業と連携を図る。	概ね計画どおり	【走行支障物件の撤去指導】 ・道路上に違法に占用物を設置している者に対する撤去指導 ・HPIによる周知啓発のほか、広報紙に、段差解消ブロック等の不法占用防止の特集を掲載 【無電柱化の推進】 ・無電柱化推進計画の策定	・走行支障物件の撤去について適正な指導を行ったほか、使用可能な媒体を有効活用し不法占用防止の周知を図った。	・適宜、走行支障物件の撤去指導を行うとともに、歩道の切り下げ工事や無電柱化事業など関連する事業と連携を図りながら、歩行者や自転車などが安全に通行できる道路空間の確保に努める。
	公共交通連携プロジェクト	鉄道駅周辺駐輪場の適切な管理運営・再整備	道路保全課 道路建設課 市街地整備課	指定管理者と連携しながら市営駐輪場の適切な管理運営に努めるとともに、駅周辺整備に合わせた駐輪場の再整備を検討する。	概ね計画どおり	・修繕工事 ⇒ 中央1丁目、中央小北、JR宇都宮駅西口 ・LED照明整備工事 ⇒JR宇都宮駅西口 ・新指定管理者を公募により選定 ・JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画の策定・公表	・不具合がある箇所については、随時、修繕を行い、適切な管理運営を実施した。 ・DXをより一層推進するため、デジタル技術を活用した駐輪場運営を行う指定管理事業者を選定することができた。 ・計画において、利用者の目的に応じた駐車場・駐輪場の適正な規模・配置に取り組むという考え方を示した。	・指定管理者と連携しながら、駐輪場のDXをより一層推進するため、デジタル技術を活用した市民サービス向上に取り組むとともに、レンタサイクル業務を含む駐輪場の管理運営を効果的・効率的に行う。 ・JR宇都宮駅西口周辺地区整備と連携し、利便性の高い駐輪場のあり方などについて検討し、適正規模・配置に取り組む。
		ライトライン停留場付近の駐輪場整備	道路建設課 LRT整備課 LRT管理課 道路管理課 道路保全課	ライトライン停留場等付近に駐輪場を整備する。また、LRTのJR宇都宮駅西側への延伸の検討状況に合わせ、中心市街地の既存の駐輪場も含めた駐輪場整備について検討を行う。	概ね計画どおり	・定期的に利用状況を調査し、利用状況に応じて増設整備を実施 ⇒ ゆいの杜西停留場付近の駐輪場について増設整備 ⇒ 陽東3丁目停留場付近に停留場を新設 ・ライトライン駅西側延伸の検討にあたり、JR宇都宮駅東口から裁判所前までは、停留場周辺の既存駐輪場を利活用し、裁判所前から教育会館前までにおいては、全ての停留場周辺に駐輪場を整備する方針を公表	・利用率が高い駐輪場について、増設整備を行ったが、いまだ混雑している駐輪場が存在することから、引き続き、利用状況を注視しながら、適宜対応する必要がある。 ・令和7年度のライトライン停留場付近の駐輪場整備については、宇都宮駅東口から裁判所前までにおいて、停留場周辺の既存駐輪場を利活用し、裁判所前から教育会館前までにおいて、全ての停留場周辺に駐輪場を整備する方針を公表した。	・ライトラインJR宇都宮駅東側の駐輪場について、利用状況を注視しながら、適宜、利便性の向上を図る。 ・ライトラインJR宇都宮駅西側延伸を見据え、各停留場付近の駐輪機能の確保に向け、各停留場の利用者ニーズを把握・分析し、整備する場所や規模などを検討する。
		バス停留所付近の駐輪場整備	道路建設課	バス路線再編の進捗状況を見据えながら、NCCにおける地域拠点や人口が集積する幹線バス路線沿線など、主要なバス停留所付近に駐輪場を整備する。	概ね計画どおり	・公共施設を活用した駐輪場整備 ⇒2箇所(中央図書館、東図書館)	・街なかの路線バス停留所付近2か所にサイクルアンドバスライド駐輪場を整備し、公共交通との乗り継ぎ強化を図った。 ・引き続き、利用率が高い路線沿線のバス停留所付近へに駐輪場整備に取り組んでいく必要がある。	・NCCにおける地域拠点や人口が集積する幹線バス路線沿線など、主要なバス停留所付近に駐輪場を整備する。
		自転車放置防止対策(鉄道駅周辺等の放置自転車対策)	道路保全課	今後の駐輪場の収容台数について、見直しを検討するとともに、これまで実施してきた「放置防止指導」の継続的な実施や、定期的な撤去を実施することにより、駅やバス停周辺、中心市街地等の都市環境の向上を図る。	概ね計画どおり	・自転車放置禁止区域等において、自転車放置防止の啓発や指導、定期的な撤去を実施 【令和3～6年度撤去実績(見込み)】 撤去台数 2,142台	・令和7年度撤去台数実績が751台となっており、近年の撤去台数は横ばいで推移している。 ・自転車放置防止対策を継続的に実施したことにより一定の成果を得られた。 ・しかしながら、中心市街地やJR駅周辺では、依然として放置自転車が見受けられる箇所がある。	・「放置防止指導」や撤去を継続に実施し、鉄道駅やバス停留所周辺、中心市街地などの都市環境の向上を図るとともに、更なる放置自転車の減少を目指し、より効果的な対策について検討する。
		中心市街地の駐輪環境整備(駐輪スポットの整備)	道路管理課 道路保全課 道路建設課	短時間無料駐輪場の整備や小規模分散型駐輪場の整備、民有地の空きスペース活用などにより、中心市街地での駐輪環境の向上を図る。	概ね計画どおり	・放置自転車防止指導員の巡回による、短時間無料自転車駐車場の案内を継続するとともに、利用可能時間についても案内をすることで、適正な短時間無料自転車駐車場の利用促進に努めた。	・放置自転車防止指導員の巡回及び短時間無料自転車駐車場の案内により、中心市街地における放置自転車数は減少し、一定の成果を得られた。	

基盤づくり	公共交通連携プロジェクト	中心市街地の駐輪環境整備(民間事業者による適切な駐輪場の確保)	道路保全課	放置自転車の発生状況等を踏まえながら、適宜、事業者に対し、適正な駐輪の指導を行い、民間事業者の適切な駐輪場の確保を図る。	概ね計画どおり	・JR宇都宮駅西口の商業施設の駐輪問題に対して、対象施設に対する指導、放置自転車への警告札の札付け及び撤去を実施した。	・対象施設に対する指導、放置自転車への警告札の札付け及び撤去により、放置自転車の台数が減少し、一定の成果を得られた。	
		駐輪場等へのICカード導入	道路保全課	市が導入した交通ICカード「totra」の駅周辺をはじめとした市営駐輪場への導入について検討する。	概ね計画どおり	・市営有料駐輪場9か所においてキャッシュレス決済を適正に運用	・利用率をさらに高めるため、さまざまな手法(現場における張り紙等)を用いて、利用促進を行い、利用率は増加した。	
		レンタサイクルの適切な管理運営及びシェアサイクル化の検討・実施	交通政策課 道路保全課 道路建設課	指定管理者と連携しながらレンタサイクルの適切な管理運営に努めるとともに、公共交通との連携強化やIoTの活用等によるシェアサイクル化について検討を行う。	概ね計画どおり	【レンタサイクル】 郊外部3か所のレンタサイクル事業については、継続している。 ・貸出場所 3箇所 ・自転車数 40台 ・利用者数 8,130人 【シェアサイクル】 ・中心市街地(R4.12～) JR宇都宮駅東側(R5.8～) ・ポート数 187箇所 ・電動アシスト自転車 397台 ・稼働率 1.23回/日・台	【レンタサイクル】 ・令和6年度とほぼ横ばいの利用者数であり、一定のニーズのもと、安定した運営がなされている。 【シェアサイクル】 ・事業者と連携し、エリアの拡大や中心市街地エリアにおけるポートの高密度化に取り組むとともに、車両を増設することで、より多くの方に利用してもらえるよう利便性の向上を図った。 ・駅西側の中心部においては、時間帯により満車の状態が続き、車両を返却できないポートが多くなることから、利用者の利便性や稼働率向上のため、ポート密度をあげるなど車両の偏在に対する対策が必要である。	・NCCの形成に向けて、公共交通機関の端末交通手段として、また、中心市街地を回遊するための交通手段として、シェアリングモビリティの普及促進を図る。
		観光拠点等へのシェアサイクル(レンタサイクル)導入検討・実施	観光MICE推進課 道路建設課	大谷地域や公共交通との交通結節点などシェアサイクルのニーズの高まりが見込まれる地域において、シェアサイクル(レンタサイクル)の導入について検討を行う。	計画以下	実績なし		
意識向上	安全・安心プロジェクト	学校やプロスポーツチーム、民間企業等と連携した交通安全教室の開催	生活安心課	小・中・高校生を対象に、交通ルールや自転車の正しい乗り方などを学んでもらう交通安全教室等を開催するとともに、新たに動画等を活用した効果的な交通安全教室を実施する。 また、高齢者を対象として、警察と連携した自転車教室や自転車シミュレーターを活用した教室・イベント等を実施する。	概ね計画どおり	・交通安全教室やイベント開催 ⇒119回 【内訳】 ・交通安全教室 108回 ・交通安全イベント 11回	・小・中・高校生を対象に、交通ルールや自転車の正しい乗り方などを学んでもらう交通安全教室、高齢者を対象に、警察と連携した自転車教室や自転車シミュレーターを活用した教室・イベントなどを実施し、交通安全についての周知及びルール遵守の徹底を図ることができた。 ・令和8年4月施行の「交通反則通告制度」の自転車への適用を見据え、交通安全教室をはじめ、様々な機会を捉え、関係機関と緊密な連携を図りながら制度の周知及びルール遵守の徹底を図ることができた。	・小・中・高校生を対象に、交通ルールや自転車の正しい乗り方などを学んでもらう交通安全教室などを開催するとともに、新たに動画などを活用した効果的な交通安全教室を実施する。 ・また、高齢者を対象として、警察と連携した自転車教室や自転車シミュレーターを活用した教室・イベントなどを実施する。
		自転車安全利用のための街頭指導の実施	生活安心課 道路建設課	自転車通行量の多い交差点や自転車走行空間の整備を行った路線などにおいて、地域や高校、警察等と連携しながら、自転車利用者に直接安全利用を呼びかける街頭指導を行う。	概ね計画どおり	・街頭指導 【内訳】 箇所数 23箇所 回数 47回	・自転車通行量の多い交差点や自転車走行空間の整備を行った路線などにおいて、地域や高校、警察等と連携しながら、自転車利用者に啓発チラシを配布するなど直接安全利用を呼びかける街頭指導を図ることができた。	・自転車通行量の多い交差点や自転車通行空間の整備を行った路線などにおいて、地域や高校、警察などと連携しながら、自転車利用者に直接安全利用を呼びかける街頭指導を行う。
		自転車ヘルメットの着用の周知・	生活安心課	・ヘルメット着用を促進するため、広報紙や、交通安全教室等における小・中・高校生と保護者へチラシを配布 ・ヘルメット着用率を高めるため、ヘルメットを着用している自転車利用者にに対し、商品の割引など独自のサービスを提供する店舗等を「自転車安全利用応援店」として認定	概ね計画どおり	・ヘルメットの重要性の周知 【チラシ配布内訳】 市内自転車安全整備店 市内全高校 ・自転車ヘルメット(安全利用)応援店 ⇒周知用動画のYouTube等へのSNS広告配信 ⇒新規認定 4店舗	・自転車安全利用動画やチラシを活用しながら児童・生徒等の自転車安全利用意識の向上や自転車ヘルメットの着用促進を図った。 また、自転車ヘルメット応援店を新たに4店舗認定し、周知用動画のSNS広告配信も行い、ヘルメットの着用促進を図った。 ・未だヘルメット着用率は低い傾向にあることから、令和8年4月からヘルメット着用が県立高校の通学条件化するなどの状況も踏まえ、引き続き、あらゆる機会を捉えた啓発が必要である。	・引き続き、自転車安全利用動画やチラシを活用しながら児童・生徒の自転車安全利用意識の向上や自転車ヘルメットの着用促進を図る。 ・市内の高校生が自らの交通問題について対策を検討する「高校生の交通問題を考える会」と連携した情報発信を実施していく。 ・自転車ヘルメット応援店の周知に取り組みながら、中高生のニーズに合わせた協力店舗の拡充に取り組んでいく。
		自転車損害賠償責任保険等の周知・啓発	生活安心課	学校や自転車販売店、保険事業者などと連携し、自転車保険加入の重要性について周知する啓発チラシを作成し、小・中・高校生と保護者等に配布する。	概ね計画どおり	・保険加入の重要性の周知 【チラシ配布内訳】 市内自転車安全整備店 市内全高校	・啓発チラシを学校や自転車安全整備店を通じて高校生や保護者等に配付するなど、自転車損害賠償責任保険の加入促進を図った。 ・保険未加入者が一定数存在していることから、引き続き、保険加入の重要性の周知を行う必要がある。	・学校や自転車販売店、保険事業者などと連携し、自転車保険加入の重要性について周知する啓発チラシを作成し、小・中・高校生と保護者等に配付するなど、自転車損害賠償責任保険の加入促進に取り組んでいく。
	生活利用・健康プロジェクト	災害時における自転車活用(災害対応職員の参集手段としての自転車利用)	危機管理課	「宇都宮市地域防災計画」において、被災により交通が途絶した場合の自転車等による職員の参集を位置づけるとともに、職員に対して日頃から経路等の確認を行うよう、研修等を活用して周知する。	概ね計画どおり	・「宇都宮市地域防災計画」の配布 ・職員研修の実施(交通機関が途絶した際の自転車等を活用した安全に参集できる手段の確保についての周知)	交通機関が途絶したときは、自転車等の活用など、安全に参集できる手段を検討し、最適な手段で参集することについて、定期的に周知を行った。	・「宇都宮市地域防災計画」において、被災により交通が途絶した場合の自転車などによる職員の参集を位置づけるとともに、職員に対して日頃から経路などの確認を行うよう、研修などを活用して周知する。
		多様な自転車の利用促進	観光MICE推進課 道路建設課	ロードバイクなど、多様な自転車が利用しやすい環境を創出するため、レンタサイクル事業を実施し、利用促進を図る。	計画以下	実績なし		

意識向上	生活利用・健康プロジェクト	企業等と連携した自転車通勤の促進	道路建設課	自転車通勤の促進に向け、自転車の環境負荷低減や健康増進、渋滞緩和などの効果について周知・啓発を行うとともに、国の『『自転車通勤推進企業』宣言プロジェクト』の活用など、企業が主体的に自転車通勤に取り組む方策を検討し、企業等と連携した自転車通勤の促進を図る。	概ね計画どおり	・健康ポイントアプリのお知らせ機能において、自転車通勤に関する情報を掲載した。	・自転車通勤の促進に向け、自転車の環境負荷低減や健康増進、渋滞緩和などの効果について、健康ポイントアプリのお知らせ機能を活用して周知・啓発を行った。	・自転車通勤の促進に向け、自転車の環境負荷低減や健康増進、渋滞緩和などの効果について周知・啓発を行うとともに、国の『『自転車通勤推進企業』宣言プロジェクト』の活用など、企業が主体的に自転車通勤に取り組む方策を検討し、企業等と連携した自転車通勤の促進を図る。
		健康ポイント事業等を活用した自転車による健康増進	健康増進課 道路建設課	自転車利用による健康増進効果を広くPRするとともに、自転車での健康ポイント事業への参加、サイクリングルート等の自転車を楽しみながら健康増進が図れるサイクルスポーツに関する情報発信を行い、自転車を活用した健康づくりを促進する。	概ね計画どおり	・自転車走行距離ポイント付与 ⇒健康ポイント事業参加者数 56,461人(R8.3月末 実績)	・健康ポイント事業登録者に向けて、自転車利用による健康づくりのPRを実施したことで、登録者における自転車の1日あたりの平均走行距離は中間目標値を大幅に上回った。	・自転車利用による健康増進効果を広くPRするとともに、自転車での健康ポイント事業への参加、サイクリングルートなどの自転車を楽しみながら健康増進が図れるサイクルスポーツに関して、健康ポイントアプリにおいて情報発信を行い、自転車を活用した健康づくりを促進する。
		プロスポーツチーム等と連携した介護予防教室の開催	高齢福祉課	宇都宮ブリッツェンと連携し、65歳以上の方を対象とした『いきいき健康自転車教室(「自転車」で楽しく運動する介護予防事業)』を開催する。	計画以上	・いきいき健康自転車教室開催 ⇒4回	・令和7年度については、実施回数を令和6年度の3回から4回に増やし、市民が教室に参加する機会を創出することで、これまで以上に介護予防や健康増進に向けた意識醸成に繋げることができた。	・「Astemo宇都宮ブリッツェン」と連携し、65歳以上の方を対象とした『いきいき健康自転車教室(「自転車」で楽しく運動する介護予防事業)』を開催する。
機会づくり	サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクト	宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース等の開催	スポーツ都市推進課	「自転車のまち宇都宮」のブランド力の更なる向上に向け、世界トップ選手によるハイレベルなレースや幅広い世代が楽しめる多彩なサイクルイベントの実施、観戦環境の充実により、「ジャパンカップサイクルロードレース」を継続的に開催する。	概ね計画どおり	【令和7年度実績(観客数)】 ⇒クリテリウム 54,000人 ※女子選手を対象とした「ウィメンズクリテリウム」を新たに開催 ⇒ロードレース 76,000人	・令和7年度の「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース」については、昨年同様、世界トップ選手によるハイレベルなレース展開のほか、小中学生を対象とした「クリテリウムパーレドラン」や女子選手を対象とした「ウィメンズクリテリウム」を新たに開催するなど子どもから大人まで幅広い世代が楽しめる多彩な付帯イベントを展開した。	・「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上や地域経済の活性化のほか、市民をはじめ多くの方々に世界トップ選手の走りを間近で体感してもらえるよう、アジア最高位の自転車ワンデyroードレース「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース」などを開催する。 ・また、ライトラインのJR宇都宮駅西側延伸後においても「宇都宮ジャパンカップクリテリウム」を開催できるよう、競技団体などとの協議を行う。
		宇都宮ジャパンカップを活用したサイクルスポーツの振興	スポーツ都市推進課	「宇都宮シクロクロス」の継続的な 開催や、オンラインで宇都宮ジャパンカップコースを体感できる環境整備等、市民が身近にサイクルスポーツに親しめる機会を提供する。	概ね計画どおり	【2025宇都宮シクロクロス(観客数)】 ・計17,000人 【「IROUVY」UJCコース体験】 ・体験者数 ⇒ 計約400人 【宇都宮ジャパンカップアフターライド】 参加者:35名(定員50名) 【フルーツライド】 参加者:33名(定員なし)	・令和7年度はUCI(国際自転車競技連合)公認の「クラス2」のレースとして開催したほか、栃木県マウンテンバイク協会と連携した「マウンテンバイクライディングスクール」などの自転車関連イベントを実施した。	・「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース」の開催に合わせて、幅広い世代が楽しめる体験型サイクルイベントを開催し、多くの市民が身近にサイクルスポーツに親しめる機会を提供する。
		森林公園におけるサイクルスポーツを楽しめる環境の整備	観光MICE推進課 スポーツ都市推進課 道路管理課 道路保全課 道路建設課	宇都宮ジャパンカップのメイン会場である森林公園において、年間を通じたコースの活用や安全な走行環境の維持など、サイクルスポーツを楽しめる環境の整備について検討する。	概ね計画どおり	・古賀志林道下り坂の一部に落車防止用のガードレールを増設 ・古賀志林道及び森林公園内の道路を修繕(くぼみ、ひび割れ)	・令和7年度は競技主管であるJCF((公財)日本自転車競技連盟)及び大会全体の安全管理者である大会セーフティーマネージャーと連携し、レースの安全性向上に努めた。	
		新たなサイクルスポーツ(BMX, MTB等)の利用環境整備の検討・実施	スポーツ施設整備室	新たな都市公園等の整備に合わせて、BMX等都市型スポーツを基本とした、多様なスポーツ関連施設の導入について検討する。	概ね計画どおり	・BMXフリースタイル・パーク競技の専用コースなどを備えた東部総合公園を令和8年3月28日に開園 ・BMXレーススタートコースなどを備える北西部地域体育施設整備事業において実施設計に着手	・東部総合公園整備運営事業については、施設整備アドバイザー等の支援を受けながら、選定事業者の建設工事のモニタリングを実施し、開園することができた。 ・北西部地域体育施設整備事業については、実施設計に着手し、着実に事業を推進することができた。	北西部地域体育施設整備事業の中でBMXレーススタートコースを整備し、サイクルスポーツを楽しめる環境の充実を図る。
		民間主体のサイクルイベント等の誘致・開催	スポーツ都市推進課 公営事業所	宇都宮ブリッツェンと連携しながら、自転車の楽しさを伝えるサイクルイベント等の誘致・開催を行う。また、宇都宮競輪場をホームバンクとする競輪選手と連携し、競輪場の認知度の向上や自転車の楽しさを伝えるサイクルイベントを開催する。	概ね計画どおり	【宇都宮ジャパンカップアフターライド】 参加者:35名(定員50名) 【フルーツライド】 参加者:33名(定員なし) 【うつのみやKEIRINフェスティバル】 ・来場者:約800名/年	・令和7年度においても、Astemo宇都宮ブリッツェンと連携しサイクリングツアーを11月、3月に実施した。 ・目標値(700名)を上回る来場者を達成することができ、自転車の楽しさ等をより多くの方々に体験してもらえた。	・「Astemo宇都宮ブリッツェン」などの関係団体と連携しながら、自転車の楽しさを伝えるサイクルイベントなどの誘致・開催を行う。 ・また、宇都宮競輪場をホームバンクとする競輪選手と連携した競輪場の認知度向上及び自転車の楽しさを伝えるサイクルイベントやアークトOWN宇都宮や北西部地域体育施設におけるBMX関連施設を活用したイベントなど、様々なサイクルレース・イベントを開催する。
		広域モデルルートの検討・設定	道路建設課	栃木県や周辺市町、宇都宮ブリッツェン等と連携を図りながら、走行環境や受け入れ環境の検討を進め、魅力的なサイクリング環境(モデルルート)の創出を図る。	概ね計画どおり	・「おにハチ」「ルート25」のルートマップを配布 ⇒ CYCLE MODE TOKYOやシクロクロス、宮サイクルステーションなど	・様々な機会を捉えて、広域モデルルートの周知啓発に取り組むことで、広域的な誘客促進を図った。	・国や県で推進する広域モデルルートやかわまちづくりの取組と合わせて、河川管理者や栃木県、周辺市町と連携し、イベントの開催や情報発信など、あらゆる機会を捉えた周知啓発に取り組むことで、鬼怒川や田川などの沿川における一層の誘客促進を図る。

機会づくり	サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクト	市内観光地等における自転車での周遊促進	スポーツ都市推進課 道路建設課	宇都宮ブリッツェンや地域等と連携を図り、その地域の魅力を自転車で楽しみながら地域を周遊できるルート等の検討支援を行う。	概ね計画どおり	・宇都宮ブリッツェンと連携した旬の果物を食べながらサイクリングする「フルーツライド」の開催 参加者：35名(定員50名) ・宇都宮ブリッツェンと連携した宇都宮市森林公園を発着点とし北西部地域を巡るサイクリングツアー「宇都宮ジャパンカップアフターライド」を実施 参加者：33名(定員なし)	・令和7年度においても、Astemo宇都宮ブリッツェンと連携しサイクリングツアーを11月、3月に実施した。	・「Astemo宇都宮ブリッツェン」や地域などと連携を図り、その地域の魅力を自転車で楽しみながら地域を周遊できる取組を実施する。
		自転車マップ等の作成・配布	道路建設課	主要な観光資源を巡るサイクリングルートに掲載した自転車マップなどを作成し、宮サイクルステーションやサイクルイベント等で配布する。	概ね計画どおり	・自転車マップ(市内版) ⇒ 4,000部/年 作成 ・自転車マップ(広域版) ⇒ 2,000部/年 作成	・CYCLE MODE TOKYOやシクロクロス、宮サイクルステーションなど、様々な機会を捉えて、本市のサイクリングルートの周知啓発に取り組むことで、誘客促進を図った。	・主要な観光資源を巡るサイクリングルートに掲載した自転車マップなどを作成し、宮サイクルステーションやサイクルイベントなどで配布する。
		サイクリングルート沿線の休憩スポット(自転車の駅等)の充実	スポーツ都市推進課	サイクリングルート沿線等への自転車の駅の設置を継続して行う。また、施設の認知度向上と利用促進に向け、サイクリストへの効果的な周知方法を検討しPRの強化を図る。	概ね計画どおり	・自転車の駅の設置 ⇒ 計74箇所 ※自転車の駅の認知度向上に向け、「宇都宮ブリッツェン」と連携し、のぼり旗を全ての施設に設置	・令和7年度においては、市内コンビニエンスストア2店舗に自転車の駅を新たに設置した。	・市サイクリングルート沿線などへの「自転車の駅」の設置を継続して行います。また、施設の認知度向上と利用促進に向け、宇都宮ジャパンカップ公式ホームページなど発信力のある媒体を活用し、積極的な情報発信を行う。
		サイクリストに対する支援策、支援体制の検討・実施	スポーツ都市推進課 道路建設課	民間事業者等と連携し、自転車の出張修理サービスや自転車搬送サービスなどサイクリストに対する支援策や支援体制の検討を行う。	概ね計画どおり	・JR東日本と連携したサイクルトレインの運行に向けた意見交換⇒催行人数に満たないことから未実施 ・宮サイクルステーションにおいて、市内限定「出張修理サービス」の実施	・令和7年度においては、宮サイクルステーションの来館者との対話等から利用者ニーズを把握し、「出張修理サービス」を開始するなど、サービスの充実に努めた。	・宮サイクルステーションなどにおいて、「自転車のまち」の拠点として利用拡大が図れるよう、指定管理者等と連携を図りながら、利用者ニーズに応じたサービスの充実を図る。 ・また、「アークタウン宇都宮」でBMXのイベントが開催される際などに、「貸切によるサイクルトレイン」を実施することについて、宇都宮ライトレール株式会社などの関係者と意見交換を行いながら、検討する。
		宮サイクルステーションの充実	スポーツ施設整備室	「自転車のまち」の拠点として利用拡大が図れるよう、指定管理者と連携を図りながら、情報発信機能やスポーツバイクレンタル機能の強化など、利用者ニーズに応じた施策・事業の充実や施設規模等について検討を行う。	概ね計画どおり	・来館者数 最大約6,200人/年 ・小型クロスバイク、ロードバイクなどの購入	・令和7年度においては、クロスバイクを2台購入したほか、出張修理サービスを実施した。	
	自転車のまちPRプロジェクト	プロスポーツチームや多様なメディアを活用した「自転車のまち宇都宮」のPRに係る情報発信	都市ブランド戦略課 スポーツ都市推進課 観光MICE推進課 道路建設課	宇都宮ジャパンカップやAstemo宇都宮ブリッツェンなど「自転車のまち宇都宮」を代表するイベントやプロスポーツチームの活動に合わせて、TV・ラジオ・SNSなど多様なメディアを活用した市内外への情報発信を行い、「自転車のまち」としてのブランド力の向上や自転車に関する取り組みの認知度向上を図る。	概ね計画どおり	【宇都宮ジャパンカップ】 ・YouTube、Instagram等を活用したデジタルマーケティングの実施 ・欧州16カ国約10,000社の新聞社放送局のなどの報道機関に大会情報や宇都宮市の観光情報を発信	・令和7年度においても、宇都宮ジャパンカップは大会HPのほかSNS等により市内外への情報発信を積極的に行った。 ・NHK(とちぎ630・スポチカラ)において、Astemo宇都宮ブリッツェンの選手が出演し、宇都宮ジャパンカップサイクルロードレースに関する情報を発信するなど、「自転車のまち」としてのブランド力の向上等に努めた。	・宇都宮ジャパンカップや「Astemo宇都宮ブリッツェン」など「自転車のまち宇都宮」を代表するイベントやプロスポーツチームをはじめ、TV・ラジオ・SNSなど多様なメディアを活用した市内外へ情報発信を積極的に行うことにより、本市の自転車に関する取組の認知度向上や「自転車のまち」としてのブランド力向上を図る。
		宮サイクルステーションの情報発信機能の強化	スポーツ都市推進課	宮サイクルステーションへのデジタルサイネージの設置を検討するなど、「自転車のまち」の拠点施設としての宮サイクルステーションの市内外への情報発信機能の強化を図る。	概ね計画どおり	・SNSやJR宇都宮駅西口に設置されたデジタルサイネージを活用した情報発信 ・宇都宮ジャパンカップ公式HP内に宮サイクルステーションをはじめとする本市の自転車関連施策が掲載されている市ホームページのリンクバナーを作成	・令和7年度においては、宇都宮ジャパンカップ公式HPにサイクルツーリズムイベントのほか自転車の駅など自転車関連施策に係る情報を掲載した。	